平成 28 年度　第 3 回島根県公共事業再評価委員会　質疑応答

件　名	平成 28 年度　第 3 回島根県公共事業再評価委員会
開催日	平成 28 年 8 月 23 日(火) 11:00～15:50
場　所	抽出地区(津和野町、浜田市、江津市)
参加者	●　委員　　安倍康二、来海公子、宗村広昭、高田龍一 常國文江、寺田哲志、平川眞代、三輪淳子 ●　県　　技術管理課長　道路建設課 GL、河川課企画幹　他
議　事	抽出箇所の現地調査 ・社会資本整備総合交付金事業　(一)須川谷日原線　日原工区 ・河川総合開発事業　浜田川 ・防災安全交付金事業　(一)皆井田江津線　跡市工区

質疑応答

社会資本整備総合交付金事業　(一)須川谷日原線　日原工区

1. 第 1 回委員会での保留事項等についての回答

(委員)　対向車検知装置の説明資料の提出

(県)　資料配付(現地でシステムの説明)。

2. 第 1 回委員会での質疑の内容の訂正

(第1回委員会での質問)

「完了予定年度に終わる見込みとしていることについて、施工上どのような工夫をするか？

(県)　第 1 回委員会において上記の質問に対し、「仮設架台等を設置して全面通行止めを極力回避することにより施工時間を確保する等の工夫」と回答していた。しかし、現場を再度精査したところ仮設による工夫は困難であることが分かった。そのため、どのようなことが工夫として出来るか検討し、訂正の回答として「重点投資による発注ロットの拡大等による対応」としたい。

(委員)　了解

3. 現地での質疑

(残区間の起点側にて)

(委員)　残区間は盛土で幅員を確保する？

(県)　軽量盛土により施工を行う計画である。

（委員） 軽量盛土とした場合、経費は高くなる？また、軽量盛土としたことにより工事期間は長くなる？工期が延びた要因が何かを知りたい。

（県） 軽量盛土とした場合、経費は高くなる。また、軽量盛土にしたことにより工事期間が長くなるということはない。工期が延びた要因としては、H25の津和野の豪雨災害により、その復旧工事への重点投資や、復旧工事に技術者がとられ、思うようにこの工区の進捗が出来なかったことがある。今でもその影響は残っている。

（委員） 軽量盛土部のＨ鋼等の完成後の維持管理は？

（県） 基本的にはむき出しになっていないのでメンテナンスフリー。

（委員） 地山は岩盤であるか？

（県） 岩盤のうえに土砂が載っている。過去盛土したものと考えられる。

（委員） 山側を掘削しない計画とした理由は？

（県） 山側を掘削する計画とした場合、現道に防護柵を設置しなければならず、夜間・通勤時間帯等の通行に必要な幅員が確保出来なくなるため現在の計画とした。最近は、このような急傾斜の地形では盛土工法とする場合が多い。

（委員） 今年度の施工区間であるヘアピンカーブ付近は、工事的にも通行においても難所だと考えるが、工事の順序として難所区間から施工しなかったのは何故？

（県） 現道の交通を確保しながら拡幅工事を行う必要があり、つづら折り区間は下側から完成させないと上側の拡幅工事のときの交通確保が困難となる。このため、それ以外の１段目及び３段目を先行して早期効果を発現させようと考えた。

（委員） 曜日によって交通量に差がある？

（県） 特に差は無いと思われる。

（委員） 観光とかの通過交通はある？

（県） 匹見町から津和野町への最短ルートになっているので通過交通はあると思うが、地区在住の人の交通が多いと思われる。

（委員） この工区の改良を行う必要性は何か？現状で通行が不可能となっている訳でもない。災害時の迂回路としてなら、防災対策により通行止めが発生しない方向にシフトする考え方があっても良いのでは？

（県） 現状の道路において自動車が安全に離合できる構造となっていないため、道路の改良をする必要がある。

（委員） 地域の人が病院に行くためにこの道を使う？
（県） 日原の診療所に行くために使う。また地区内に向かうデイサービスや定期健康診断の車も通行する。

（委員） 対向車検知装置を設置した区間は改良しない？また、残工事はつづら折りの区間だけ？
（県） そのとおり。

（委員） 宿題として、道路の構造を満足していないから改良する必要があるというのではなく、この道の東西幹線としての位置づけ・役割・必要性を具体的に示してもらいたい。
（県） 整理する。

（委員） そもそも何故1．5車線的改良としたか？
（県） 元々バイパス計画としていたが、地財ショックのあおりで見直しを余儀なくされ、必要最低限の1．5車線的改良とした。

（委員） B／Cは算定できない？
（県） 部分的にいろいろな改良を組み合わせる1．5車線的改良は算定の手法が確立されていない。

河川総合開発事業 浜田川

1．現地での質疑

（第二浜田ダム地点にて）

（委員） 発電施設のコスト回収にはどのくらいかかるか試算している？
（県） 20年間収支での採算性を確認し、発電施設導入を決めている。また20年間は固定価格買取制度で高い単価で売電ができるが、その制度が終わっても、単価は安価となるが買い取りはされる。

（委員） 貯水を河川維持流量として単純に下流に流していたものを有効利用したということ？
（県） そのとおり。

（委員） 河川維持流量を放流できないような状況は出てくる？
（県） 通常の気象であれば放流が出来ない状況は発生しないと考えている。

（委員） 今回再評価に上がってきたのは発電設備の追加があったから？事業費の増はある？
（県） 発電設備の追加と事業費の増があり、事業費増の要因は発電設備と資材等のコスト増である。

（浜田ダム再開発地点にて）

（委員） 今、河川流量はどこから流している？

（県） 左岸側の常用洪水吐きから流している。工事を行っていない方の洪水吐きから流すようにしている。

（委員） 汚濁水が流出することはない？

（委員） 濁水処理設備の目的は？

（県） コンクリートの取り壊しに使用しているワイヤーソーは、水をかけながらの施工であり、その水にコンクリートの微細な粒子が混じってしまうことから、その濁水を処理するために設置している。

防災安全交付金事業 （一）皆井田江津線 跡市工区

1．現地での質疑

（全線視察にて）

（委員） （一）皆井田江津線に途中タッチする市道山中線は2車線となっている。県道側（（一）跡市波子停車場線交差点～市道山中線交差点区間）は1．5車線的改良で良いか？

（県） 県では、750台／日以上の交通量を2車線改良の目安としている。（一）跡市波子停車場線交差点～市道山中線交差点区間は交通量が満たないため1．5車線的改良としている。市道山中線については市が「風の国」のアクセス道路として2車線改良している。

（委員） 残区間は何m？

（県） 580mが未完成。74％が完成している。

（皆井田江津線と跡市波子停車場線の交点付近にて）

（委員） 家屋移転に相当の期間を要したことが10年以上の工期が必要となった理由？工事内容は変わっていない？

（県） 平成25年の災害後、ようやく用地買収がかなり進んだ。工事内容・位置付けについては変わらない。

（委員） 2車線拡幅区間について、拡幅してどこまでが道路になる？

（県） 現地説明

（委員） 住宅も近接しているので計画にある歩道の必要性も感じられる。

（県） 小学校が無くなってしまったため通学路とはなっていないが、児童は旧跡市小学校に集まってバスに乗ることになる。また、交流センターへの人の動きはあるので歩道の必要性はある。

以上